

個人の発想、板金技術でカタチに

フジムラ製作所(埼玉 県川口市、藤村智広社長)は、板金加工技術を生かしたデザイン性の高い商品開発に力を入れている。もともと同社は主力の法人向け加工のほか、自社ブランド「デジタルストラクチャー」として小型レンタルポット向け製品などを手がけていた。この経験を生かし、個人向けカスタムオーダー製品の受注を開始。アイデアはあるが作り手が見つからず困っている個人クリエイターや一般ユーザーのニーズを取り込み、新市場の開拓へとつなげている。

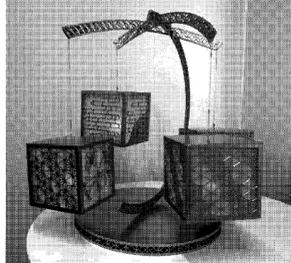
個人向けの依頼は、車載機器の取り付けや結婚式の金属プレート、キッチン周りのオーダー家具など幅広い。設計チームは6名で、CADやイラストレーター、フォトショップなど多様な技術を持つ。手描きのイラストだけでも図面だけでもいい。アレンジを重ね、3次元(3D)CADで具体的な形に落とし込む。素材や仕上げも自由に選べ、金属加工の技術を生かした独自のデザイン提案が可能だ。個人の思い描くアイデアを形にするだけで



フジムラ製作所が製造した特注キャビネットを横に微笑む内山専務

なく、より使いやすくと、より美しくする工夫も盛り込める。同社の強みは、多品種少量生産のノウハウと、デザインと機能を同時に検討できる体制にある。ユーザーのアイデアに沿いつつ、必要に応じてV&V提案(付加価値の改善)を行う。例えば既製品のシク間に収まる家具や装置を設計する際、曲げ角度や素材を微調整し違和感なく収めるといった細かな工夫も施す。

同社は技術とデザインを融合させ、新しい形の金属製品づくりの可能性を広げている。内山専務取締役は「個人向けの幅を広げ、身近に使える金属製品や多様なデザインの製品を増やしていきたい」と展望する。



川口市の花「テッポウユリ」を高度な加工技術で描いた電気スタンド。フジムラ製作所の技術を結集して製造した



〒332-0004 埼玉県川口市領家3-12-10
TEL:048-225-7781 FAX:048-225-7814
<https://www.fujimurass.com/index.html>

金属加工、デザイン融合で新市場

かねよじ(埼玉県川口市、吉田竜一社長)は、展開し、Bツウ(対消費者)販売にも乗り出している。図面がなくとも顧客のイメージをくみ取り、CADで設計データ化できる設計力を備えている。試作を重ねて形にしてきた。「デザイン性の高い注文の挑戦は社員の技術力向上にもつながる」と吉田社長は強調する。個人客からの注文は最短1日で仕上げられ、スピードと柔軟性も大きな武器となっている。

Bツウ向けでは椅子などの家具類を中心に販売。デザインと共同開発した製品はアマゾンなどの販売サイトで購入できる。量産ではな



Bツウ向けにはデザイナーと椅子を共同開発した



Bツウ向けへの挑戦を続ける吉田社長

く受注生産を基本とし、短期体制を整えている。設計から加工、仕上げまで社内で一貫対応できる体制を整えており、構想段階の要望にも柔軟に対応できる。顧客は自分のイメージを具体的な製品として短期間で手にできる点が特長だ。

材料も豊富で、鉄や銅、ステンレス、アルミニウム、真ちゅう、チタンなどを揃え、レーザー加工機も複数台運用。個々の注文に応じた精密加工が可能で、この幅広い材料と加工の選択技を生かし、顧客のイメージを忠実に形にしている。同社は技術力とCAD設計力を基盤に、モノづくりとデザインの融合を進め、今後も幅広い受注に対応していく考えだ。



〒332-0032 埼玉県川口市中青木5-3-17
TEL:048-253-0001 FAX:048-253-4528
<https://www.kaneyoshidesu.co.jp/>

モノづくり×デザイン

技術と創造が交差する最前線

埼玉県は金属加工や精密機械、鋳物などの製造業が集積する。特に川口市を中心とする県南部には中小の加工企業が多く立地し、首都圏の産業を下支えしてきた。一方、原材料価格の上昇や受注環境の変化、人口減少に伴う国内市場の縮小などを背景に、従来の企業向け受託加工に依存した事業構造の見直しが必要となっている。こうした中、自社技術を活用した独自製品を開発し、消費者向け市場に参入する動きが広がっている。

転換の鍵の一つが、技術とデザインの組み合わせだ。外観上の意匠にとまらず、アルミ加工やレーザー切断、精密研磨といった既存技術を利用者の視点から再構成し、用途や販路を再検討する取り組みが進む。

具体的には、外部デザイナーとの協業や、3次元(3D)CAD、グラフィックソフトを活用できる社内設計体制の整備などが挙げられる。意匠性の高い製品づくりに取り組む過程で、加工精度や工程管理の見直しが進み、既存事業にも好循環が生まれている。

価格競争が続く中、技術力に加えて企画・設計段階からの付加価値創出を図る動きは、中小製造業の収益構造の多様化を探る試みともいえる。本特集では、こうした潮流を踏まえ、埼玉県で技術を基盤に新製品開発やブランド展開に取り組む4者の事例を紹介する。

川口の技術者集団、BツウC展開

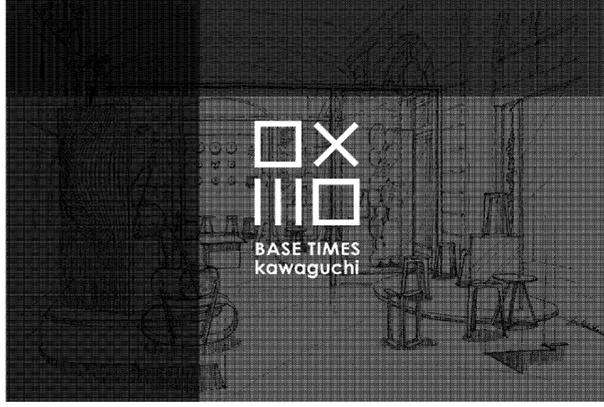
BASE TIMES kawaguchi 精密切削やレーザー加工の製品を発売した。切削工、研磨、装飾、曲げ加工や研削、曲げなど各社の得意技術を持ち寄り、数か月かけて完成させた。かねよじ、栗原精機、新光ステンレス研磨、フジテック、マエダ、小貫金網製作所を中心に構成。

2022年から3年連続で「川口まちづくり芸術祭」にて作品を展示

2025年には世界最大級のデザインウイーク「ミラノデザインウィーク」にも出展。金属製品の魅力を発表した。チェア「kawaguch chair」(カワグチエア)シリーズを発表した。

こうした活動はメーカーやデザイナーに自社の技術力をアピールする場となり、本業のBツウ(対企業)の受注拡大にもつながっている。今までは異なる業種からも注文が舞い込み、難易度の高い加工に挑むことで社員の技術力やモチベーションも向上したという。さらにBツウの結成により、個社では対応困難だった仕事も他社に振り分けられるようになり、川口市のモノづくり全体の活性化にも寄与している。

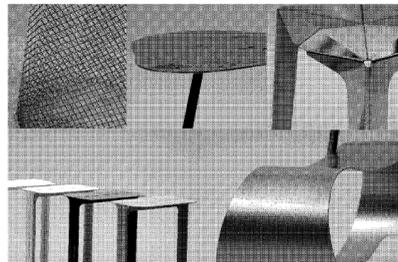
BTKは今後も、川口の規模製造業の強みを結果し、デザインと技術を融合させたモノづくりに地域産業の活性化と新たな市場開拓に挑戦していく。



2026年ミラノデザインウィークでの展示イメージ

こうした活動はメーカーやデザイナーに自社の技術力をアピールする場となり、本業のBツウ(対企業)の受注拡大にもつながっている。今までは異なる業種からも注文が舞い込み、難易度の高い加工に挑むことで社員の技術力やモチベーションも向上したという。さらにBツウの結成により、個社では対応困難だった仕事も他社に振り分けられるようになり、川口市のモノづくり全体の活性化にも寄与している。

BTKは今後も、川口の規模製造業の強みを結果し、デザインと技術を融合させたモノづくりに地域産業の活性化と新たな市場開拓に挑戦していく。



5社それぞれの得意技術で加工した各製品



<https://basetimeskawaguchi.jp/>
info@basetimeskawaguchi.jp

額縁メーカー、照明開発で空間デザイン分野へ

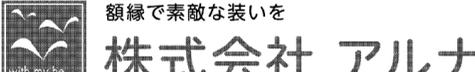
アルナ(埼玉県川口市、雪山大社長)は、額縁製造で磨いたデザイン力とアルミ加工技術を生かして、照明器具「Lumiframe」を開発・販売している。外部デザイナーとの協業を通じて、「飾る」という行為を見直し、額縁え、インテリアショップや建築設計事務所へ拡大している。人口減に伴う額縁需要の縮小や価格競争の激化を背景に、額縁のみならず、空間の印象を左右するインテリア・エクステリアを含んだ空間デザインメーカーへと位置付けを転換しつつある。

ルミフレームは入社5年目の若手社員、宮城涼さんと塩島ゆうさんが中心となり、新進デザイナー北條英氏と共同企画。アルミ押し出し材を用い、額縁同様にミリ単位で寸法指定できる受注生産方式を採用した。曲線部には光が滑らかに回り込むクロノイド曲線を取り入れ、試作を重ね均一な拡散光を実現。光



ルミフレーム(写真手前)の曲線部には、光が滑らかに回り込むクロノイド曲線を取り入れた

かけるなど設置方向で配光の表情も変わる。宮城さんは「蓄積された技術があるから、思い描いたものを製品にできる。挑戦すれば社長が背中を押してくれる環境もあり、営業も工場も意見を話し合い形にしやす」と話す。塩島さんは「照明以外にも『飾る』という視点で多様なプロダクトが可能。今後はそうしたアイデアも形にしていきたい」と意欲を示す。



〒333-0801 埼玉県川口市東川口2-2-2
シマビル22 7号室
TEL:048-291-9309 FAX:048-291-9409
<https://aluna.co.jp/>



据え置き型のルミフレームを手にはほほ笑む塩島さん(右)と宮城さん